

介護老人保健施設(老健)等における計画上の施設定員数と現状

令和7年2月 介護保険課

【現状】

- 「松江市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」において、計画期間中(令和6～8年度)の市内介護施設の定員の計画値や新規整備の有無について記載している。
- 令和6年10月31日、介護老人保健施設(以下「老健」)「ナーシングセンターあけぼの」が廃止。そのため第9期計画上の施設整備計画と現状とに差異が生じている。
- また介護老人福祉施設(以下「特養」)1カ所が、令和7年1月1日から定員数を50から40に変更。

(単位:床)

	計画	現状	差
老健	558	498	△ 60
特養	1,070	1,060	△ 10

【市内施設に対する調査の概要】

- 計画値と現状値に差異があることから、市内の介護施設に対し現在の施設の入所状況等について調査を実施。

【調査の結果】

	施設数	定員数 a	入所者数 b	入所率 b/a	待機者数の 1施設平均	「入所申込みが減少した」施設の割合※
特養	19	1070	1013	94.7%	51.3	94.4%
老健	6	498	421	84.5%	4.5	100.0%
医療院	3	283	271	95.8%	3.7	66.7%

※「最近入所申込み数が減少したと感じるか」との問いに「はい」と回答した施設の割合。

入所申込み数に関する自由意見(老健)

- ・数年前から申し込み人数が減少するようになった
- ・老健を特養待ちで長期利用される方が多い印象
- ・介護医療院や医療型ケア病棟、サ高住に人が流れているのか、病院からの申込みが減少した

【調査結果からの考察】

- 特養や介護医療院と比較し、老健は入所率がやや低い状況。
- 「入所申込みが減少した」と回答した施設は老健、特養ともに多く、特に老健は回答のあった全施設で「減少した」と回答。
- 待機者数は特養で多いものの、入所の順序が来ても「在宅のままでよい」「現在の施設でよい」と断る待機者が少なからずある。一方、老健の待機者は特養ほど多くない。
- 老健では入所者全体のうち入所期間が長期化している者の割合が増加。
当課が行った施設への聴き取り調査では、入所者の60～80%が長期入所者という状況。
- 「特養の待機待ちとして老健に入所し、そのまま長期入所に至っている利用者が多い」との回答が自由記述欄にあり。

【まとめ】

- 老健は1施設定員60床分が減少したが、11月末現時点で老健全体の入所者数は定員数以下に収まっており、待機者も特養より多くない。
- 老健の入所者の長期化や、特養の待機施設として老健に入所するケースが見られる。
- 在宅復帰を希望する利用者は多く、老健へのニーズは引き続きあると考えるが、一方で長期的な施設入所者の増加や、認知症対応、看取り対応など、介護施設に求められるニーズも多様化しており、老健が数カ月での在宅復帰を目指す利用者のみを受け入れることが難しくなっている状況と考える

- 以上から、老健については第9期計画における施設整備の計画値とは差異があるものの、早急に整備を行う状況にはなく、新たな整備については十分な検討が必要。
→第10期計画策定時に検討することとする。

一方、特養については、定員を変更した施設が現在人員確保に向け求人を行っており、人員が確保できれば定員数を戻したいと考えていることから、直ちに公募は行わない。